

第108期中間 事業のご報告

株主通信

2017年4月1日～2017年9月30日

CHAIN OPERATIONS

POWER TRANSMISSION UNITS AND
COMPONENTS OPERATIONS

AUTOMOTIVE PARTS
OPERATIONS

MATERIALS HANDLING
SYSTEMS OPERATIONS

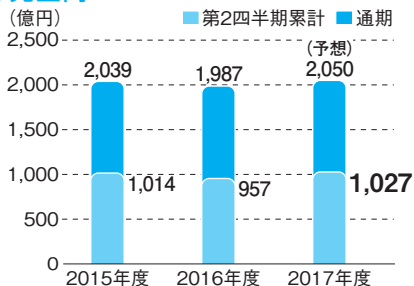
連結決算ハイライト

決算のポイント

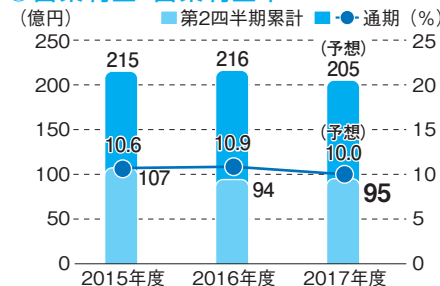
チェーン、精機事業の国内向けが業績をけん引、
前年同期比で増収増益

売上・利益指標

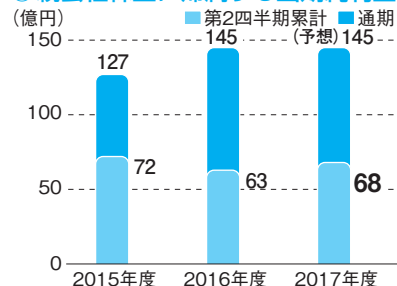
○売上高



○営業利益/営業利益率

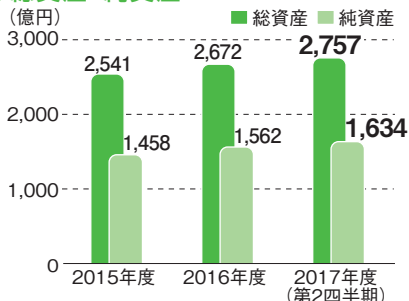


○親会社株主に帰属する当期純利益

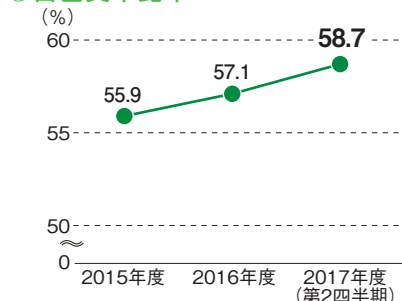


資産指標

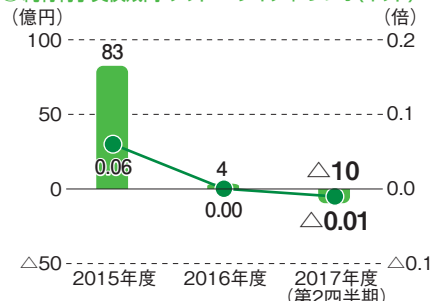
○総資産・純資産



○自己資本比率

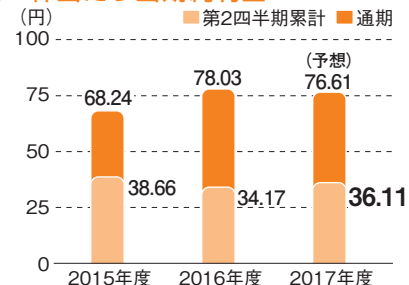


○純有利子負債残高/デット・エクイティ・レシオ(ネット)

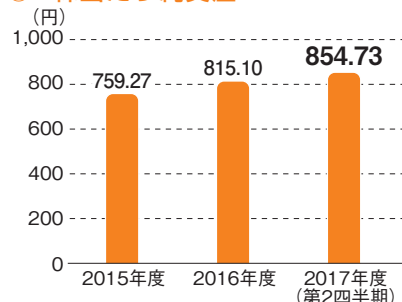


1株当たり指標

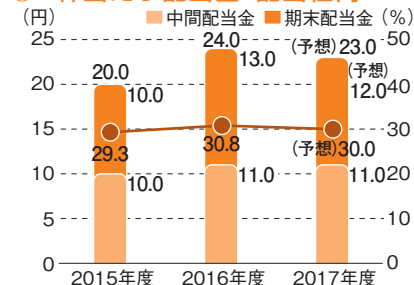
○1株当たり当期純利益



○1株当たり純資産



○1株当たり配当金/配当性向



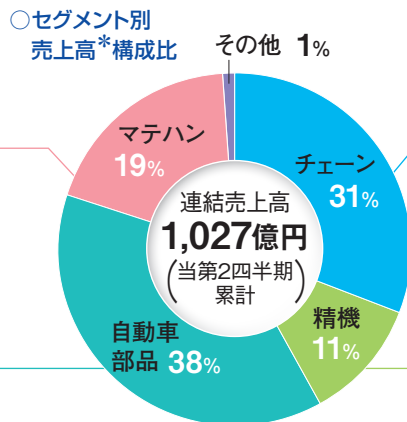
セグメント別の概況

マテハン事業

日本で物流業界向けシステムや粉体搬送装置、金属屑搬送・クーラント処理装置などの売上が増加。米国で金属屑搬送・クーラント処理装置などの売上が増加したことなどから、前年同期比で増収。

自動車部品事業

自動車エンジン用タイミングドライブシステムの販売が日本では横ばい、米国はやや減少したが、欧州、タイ、中国、韓国、メキシコの拠点において好調を維持したことから、前年同期比で増収。



チェーン事業

日本で動力伝動用チェーンや搬送用チェーン、ケーブル・ホース支持案内装置などの販売が好調、東アジアでも搬送用チェーンなどの販売が好調、米州では動力伝動用チェーン、搬送用チェーンの販売が堅調であったことなどから、前年同期比で増収。

精機事業

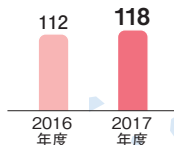
日本で減速機や直線作動機などの販売が好調、中国では減速機などの販売が回復傾向にあることに加え、第1四半期よりタイのクラッチ製造子会社を連結の範囲に含めたことなどから、前年同期比で増収。

*売上高は「外部顧客に対する売上高」です。

地域別売上高

欧州

第2四半期累計売上高 (億円)



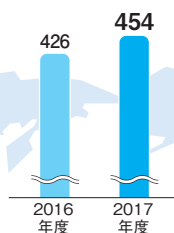
中国

第2四半期累計売上高 (億円)



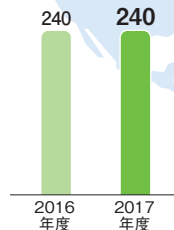
日本

第2四半期累計売上高 (億円)



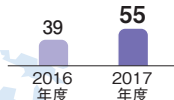
米州

第2四半期累計売上高 (億円)



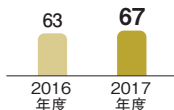
韓国・台湾

第2四半期累計売上高 (億円)

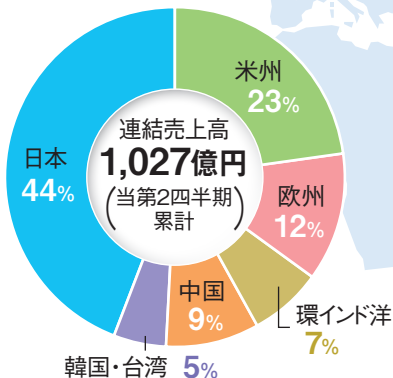


環インド洋

第2四半期累計売上高 (億円)



地域別売上高構成比



次の100年に向け、つばきグループは進化を続けて



代表取締役会長兼CEO 長 勇 (右)
代表取締役社長兼COO 大原 靖 (左)

2017年度上半期の 連結業績について

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループは、2017年、おかげさまで、創業100周年を迎えました。

これもひとえに、株主の皆様をはじめ、関係各位のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

2017年度 第2四半期累計期間(上半期)の連結業績は、売上高1,027億円、営業利益95億円(営業利益率9.2%)となりました。

売上高については、国内におけるチェーン事業や精機事業、マテハン事業、海外での自動車部品事業が好調に推移したことにより前年同期比7.4%の増収、上半期ベースでの

過去最高を達成しました。

しかしながら営業利益については、特殊鋼などの材料価格が上昇したこと、自動車部品事業における国内外での先行投資費用が増加したことなどから、前年同期比0.1%増と、ほぼ横ばいにとどまりました。

「中期経営計画2020」 課題達成への取り組み

当社グループは、2020年度のあるべき姿を「グローバルトップ企業」と定め、その実現に向けた4か年のアクションプラン「中期経営計画2020(2017~20年度)」を本年4月にスタートさせました。

中期経営計画の数値目標は「連結売上高3,000億円、営業利益300億円(いずれも2020年度)」ですが、その実現に向けた当社グループ4つの事業それぞれの課題と取り組みの一例をご紹介します。

まず、チェーン事業では、「欧州市場におけるビジネス拡大」。欧州各国での販売体制を再構築することで販売力を強化するとともに、現地生産の拡大を図ります。

また、欧州とともに重点地域としている中国では、天津工場製コンベヤチェーンの中国国内向け販売拡大やASEAN諸国を中心とした輸出の増加を目指します。

精機事業では、本年新発売の直交軸ギヤモータ「アクシアモータ®」、電動シリンダ「パワーシリンダUシリーズ」など新商品開発を推進しています。

カムクラッチについては、二輪車向けスタータクラッチなど、海外を中心とした競争力を強化していきます。

自動車部品事業は、欧州、中国市場におけるシェア拡大が重要テーマです。欧州の顧客ニーズに適應する新商品開発を加速させるとともに、中国市場での価格競争力強化のため、天津工場の生産性を高めていきます。

また、非タイミングビジネスにおける新商品開発にも注力しています。

いきます。

マテハン事業では、流通業界向け高速自動仕分機や自動車製造ライン搬送設備、ライフサイエンス分野向け超低温自動保管庫など、新商品開発を強化していきます。

そして、埼玉工場内に建設中の新マテハン工場(2018年6月稼働予定)では、環境対応型工場とするとともに、商品展示場を設置するなど、魅せる工場としてプロモーション力の強化を図ります。

ツバキE&Mを吸収合併、モーションコントロール事業部が発足

当社は、精機事業のコア技術を強化し、グループ総合力の発揮によるグローバル成長力強化を図るため、2017年10月1日付で当社完全子会社の「株式会社ツバキE&M」を吸収合併し、樺本チエイン・モーションコントロール事業部として発足させました。

他の事業部門や開発・技術センターとの連携を強化し、新技術、新商品開発のスピードアップを図るとともに、IoT対応を含む制御技術を磨き上げることにより競争力を強化していきます。

2017年度の業績予想について

上半期は期初予想をやや上回る業績となり、足下の業況も堅調を維持していますが、先行きを慎重にとらえ、通期連結業績予想については期初予想(2017年5月10日公表)を据え置きました。

「中期経営計画2020」の達成、そしてその先の成長に向けた先行投資を行っていることなどから、今年度は利益が伸び悩むと予想していますが、「ONE TSUBAKI」をキーワードにグループ総合力を発揮し、企業価値を高めていきます。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

「長期ビジョン2020」

あるべき姿

グローバルトップ企業

「中期経営計画2020」

基本方針

- 1 マーケットインの企業文化への転換
- 2 グループ総合力の発揮
- 3 2020年のあるべき姿の実現

2020年度 数値目標(連結)

売上高
3,000億円

営業利益
300億円

○2017年度 通期連結業績予想と配当予想

		前年度比
売上高	2,050億円	4.4%
営業利益	205億円	▲ 7.3%
経常利益	210億円	▲ 5.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	145億円	▲ 1.4%
1株当たり配当金	第2四半期末:11円/株 期末:12円/株 年間23円/株 (前年度比1円増配、100周年記念配当2円を除く)	

*2017年度下半期の主な為替レートは、1米ドル=110円、1ユーロ=130円を前提としております。

*上記予想は、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づくものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

事業紹介



売上高構成比

チェーン事業

産業用スチールチェーンは世界シェアNo.1*

モノ動くところに「チェーン」あり。国内外のあらゆる産業、用途に応じ、世界シェアNo.1*の産業用スチールチェーンをはじめとした約2万種類の豊富なラインアップから最適なチェーンを最高の品質と最短の納期でお届けしています。

*シェアは当社調べ

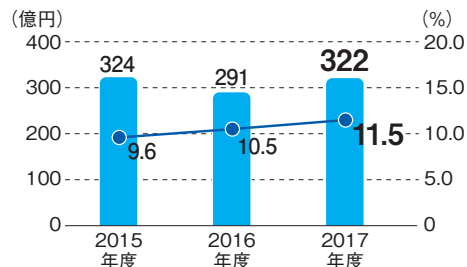


ドライブチェーン
「G8」シリーズ



小形コンベヤチェーン

売上高*/営業利益率(第2四半期累計)



主要商品

動力伝動用チェーン、搬送用チェーン、ケーブル・ホース支持案内装置、一般産業用ベルトなど



売上高構成比

精機事業

減速機、直線作動機などの豊富な商品群

「Motion & Control」に関わる機械部品と、その複合技術・制御技術を生かし、産業機械の複雑な動きを精密にコントロールする精機商品群。エレベータの昇降や立体駐車場、アーケードの屋根開閉、風力発電やスキーリフトなど、日常生活のさまざまなシーンでも活躍しています。

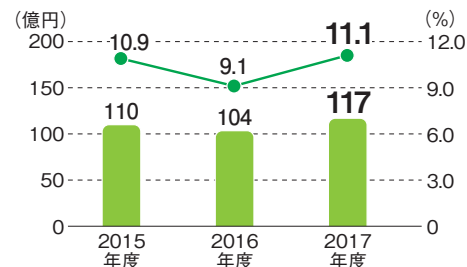


ギヤモータ(アシアンモータ®)



過負荷保護機器(ショックモニタ®)

売上高*/営業利益率(第2四半期累計)



主要商品

減速機・変速機、直線作動機、軸継手、締結具、クラッチなど



売上高構成比

自動車部品事業

エンジンの高性能化を支えるタイミングチェーンドライブシステム

自動車エンジンの高性能化、エコ化に寄与するタイミングチェーンドライブシステムで、国内68%*、世界37%*とトップシェア。日本、アメリカ、イギリス、タイ、中国、韓国、メキシコ、チェコの8カ国12工場から供給されるその品質と技術は、世界の自動車メーカーから高い信頼を獲得しています。

*シェアは当社調べ

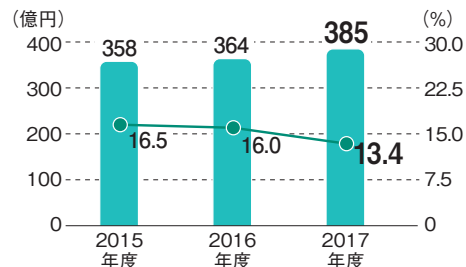


タイミングチェーン
ドライブシステム
搭載例



4輪駆動用
トランスファーケースチェーン
(パワードライブチェーン)

売上高*/営業利益率(第2四半期累計)



主要商品

タイミングチェーン、チェーンテンショナ、ガイド、レバー、スプロケットなど



売上高構成比

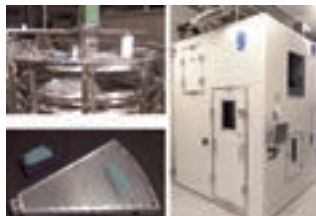
マテハン事業

生産性向上に寄与するソリューションを提供

物流倉庫や宅配便の集配センター向け自動仕分けシステム、ライフサイエンス分野向け冷凍自動保管庫のほか、自動車製造工場向けの車体搬送設備、セメントなどの粉粒体搬送装置や工作機械向けの金属屑搬送・クーラント処理装置など、お客様の生産性向上に寄与する高度なソリューションを提供しています。

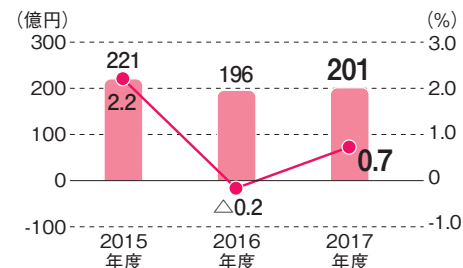


多段階高速自動仕分け機(リニソート®S-C)



ライフサイエンス分野向け超低温自動保管庫

売上高*/営業利益率(第2四半期累計)



主要商品

自動車製造工場向けシステム、物流業界向けシステム、粉粒体搬送装置など

*売上高には「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。



「中期経営計画2020」
における重点地域

欧州



「世界のつばき」第4弾は、2017年4月にスタートした4ヵ年計画「中期
「欧州」です。「モノづくり力」、「販売力」の両面での強化を目指す欧州につ

1972年、オランダに現地法

1972年、オランダに現地の販売代理店P.コニング社との合併で「Tsubakimoto Europe B.V.」を設立し、アジア、北米に続いて欧州に進出。1985年には自動車部品の製造拠点として「Tsubakimoto U.K. Ltd.」（イギリス）を設立しました。

2010年にケーブル・ホース支持案内装置の大手「Kabelschlepp GmbH(現Tsubaki Kabelschlepp GmbH、以下TKG)」（ドイツ）を買収の後、2012年にはアメリカのメイフラン・ホールディングスグループ傘下の全事

10年間で売上高が2.3倍に

前述のM&Aによる売上増加に加え、自動車部品事業の伸長、欧州の工業規格（BS規格、DIN規格）対応の高品質チェーンの開発、販売拠点の拡充などにより、2006年度に96億円であった欧州での売上高は、2016年度に

現地でのモノづくりを強化

欧州は国ごとに経済状況や文化が異なること、日本と工業規格が異なることなどから、長年、欧州での製造拠点は、イギリスにおける自動車部品の組立工場のみでした。しかし2010年の「TKG」、2012年のメイフラン買収により、ドイツ、スロバキア、オランダに製造拠点を取得。2016年にイタリアの搬送用チェーンメーカーと技術援助契約を締

Keyword

歴史

Keyword

成長

Keyword

モノ
づくり

経営計画2020」において、重点地域と位置付けている
いて、歴史や製造、販売拠点などを紹介します。

人を設立

業を取得、欧州におけるスクラップコンベヤ、チップコンベヤの製造・販売力を強化しました。そして2015年、自動車部品の欧州第2の製造拠点として「Tsubaki Automotive Czech Republic s.r.o.」(チェコ)を設立、本年10月より新工場が稼働を始めました。2016年にはイベリア半島でのシェア拡大を目指し、スペインに販売会社「Tsubaki Ibérica Power Transmission SL」を設立しています。



Tsubakimoto Europe B.V.

成長

は222億円と、約2.3倍に成長。

欧州では、現地生産の拡大や欧州での販売体制強化を推進し、「中期経営計画2020」最終年度(2020年度)の売上高311億円の達成を目指します。



Tsubaki Kableschlepp GmbH

結したほか、2017年にはチェコの自動車部品工場が稼働を始めるなど、現地でのモノづくりは近年、一気に拡大してきました。今後はさらに、産業用チェーンを中心に現地でのモノづくりを強化することで、欧州での成長を確実なものにしていきます。

現地でのモノづくりが加速

Tsubaki Automotive Czech Republic s.r.o.

2015年7月にチェコに設立した「Tsubaki Automotive Czech Republic s.r.o.」の新工場が竣工。2017年10月18日に開所式を開催しました。

開所式には、チェコの産業貿易省、コリーン市長、チェコ投資局関係者をはじめ、在チェコ日系企業各社や当社グループ関係者の約100名が出席。産業貿易省、コリーン市長からは、同社設立が地元の雇用拡大や地域発展につながっていることへのお礼の言葉をいただきました。

同社工場は、自動車エンジン用タイミングチェーンドライブシステムにおける、日本、アメリカ、イギリス、タイ、中国、韓国、メキシコに続く、世界8か国12番目の製造拠点となります。これまで、欧州市場向けには、Tsubakimoto U.K. Ltd.から生産・供給してきましたが、さらにチェコで欧州第2の製造拠点が稼働を始め、欧州自動車メーカー向けビジネス拡大に対応していきます。

なお、同社ではエンジン用タイミングチェーンドライブシステムおよび4輪駆動車用トランスファーケースチェーンを欧州自動車メーカー、一次部品メーカーに供給する予定です。



開所式の様子



外観

トピックス

TOPICS
1

Japan IT Week 春「第1回 店舗ITソリューション展【春】」に出展

5月10日から3日間、東京ビッグサイトで開催された「第1回 店舗ITソリューション展【春】」に出展しました。この展示会は約9万人が来場するイベントで、「ソータ市場のシェア

アップ化」、「ソータをコアとした、物流センター全体のエンジニアリング領域の拡大」をテーマに、リニソート®S-Cの実機を展示。来場者に多段構造による省スペース化をアピールしました。

本展示会は、店舗のIT化に関する展示会ですが、流通業界における機械化、省人化の関心は高く、短期間で設置でき、使用面積もコンパクトなリニソート®S-Cは注目を集めました。



リニソート®S-C

TOPICS
2

「第21回機械要素技術展」 に出展

6月21日から3日間、東京ビッグサイトで開催された「第21回機械要素技術展」に当社を含む3社がつばきグループとして合同出展しました。創業100周年を迎え、これからも「動かす」分野で進化を続けていくことをPR。「つばきもつとエコロジー、ソリューションをカタチに」をテーマに、ジップチェーン商品と100周年モデル商品(ドライブチェーンG8シリーズアクシアモータ®など)を中心とした展示を行いました。

今回、ブース正面に展示したジップチェーンリフタ®は、様々な動きをみせながら、約4mの揚程で高速昇降し、常に人だかりがができるほどの注目を集めました。この集客効果もあり、ブース来場者数、商談数、カタログ請求件数も例年以上と大変盛況な展示会となりました。



TOPICS
3

「第108回定時株主総会」を開催

6月29日、午前10時からホテル・ニューオータニ大阪において、「第108回定時株主総会」を開催しました。総会では、196名の株主の方々にご出席いただき、議長の挨拶の後、「事業報告」「対処すべき課題」「中期経営計画2020」等について報告を行いました。質疑応答を経て、4つの議案はすべて原案どおり承認可決されました。総会終了後は例年どおり、会場を移して、株主様と当社役員との直接対話の場として懇談会を開催。商品展示コーナーを設け、当社事業へのご理解を深めていただきました。



TOPICS
4

ツバキE&M(完全子会社)を吸収合併

当社は、精機事業のコア技術を強化し、グループ総合力の発揮によるグローバル成長力強化を図るため、当社の完全子会社で、当該事業の中核会社であるツバキE&Mを10月1日に吸収合併し、「モーションコントロール事業部」として発足させました。今後は、連携強化による新技術・新商品の創出はもちろん、人材活用、重複業務のスリム化など、様々な部分で効率化を図っていきます。本合併に伴い、旧ツバキE&Mの2工場(京都工場・岡山工場)は椿本チエインの長岡京工場・岡山工場となり、当社は5工場体制となります(京田辺・埼玉・長岡京・兵庫・岡山)。



モーションコントロール事業部が製造する精機商品



長岡京工場(京都府)

TOPICS
5

創業100周年記念「感謝の会」を開催

創業100周年記念事業の対外イベントとして、9月に「感謝の会」を開催しました。最終のお客様をご招待するのはつばきグループ初の試みで、東京・名古屋・大阪の3会場です。これまでの感謝をお伝えするとともに、つばきグループの歴史、事業と総合力、今後の目指す姿などをご紹介します。お客様との信頼関係を強化し、今後のビジネスチャンス拡大につなげる場を目指しました。



これまでの感謝をお伝えし、
当社の歴史・事業内容をご紹介します



東京・名古屋・大阪の3会場で開催



“動かす”分野で進化を続ける姿をPR

TOPICS
6

創業100周年記念広告が 広告賞をW受賞

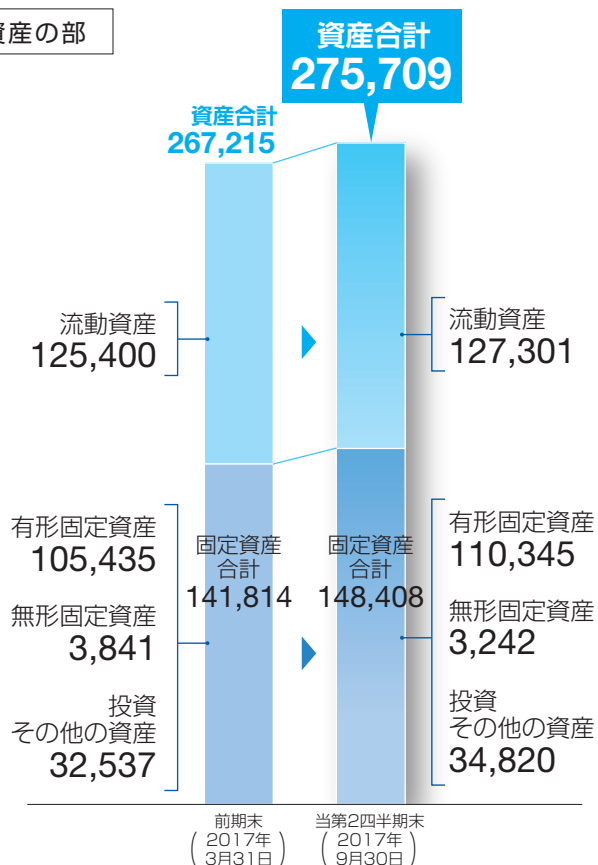
創業100周年記念広告が、「日経広告賞・IR部門 優秀賞」(4月4日に日本経済新聞・夕刊全広告欄に掲載)および「日本産業広告賞 シリーズ第一部 第3席」(9月4日～6日の3日間、日刊工業新聞に全面広告を掲載)をW受賞しました。広告原稿は当社グループホームページ「100周年特設サイト」からご覧いただくことができます。



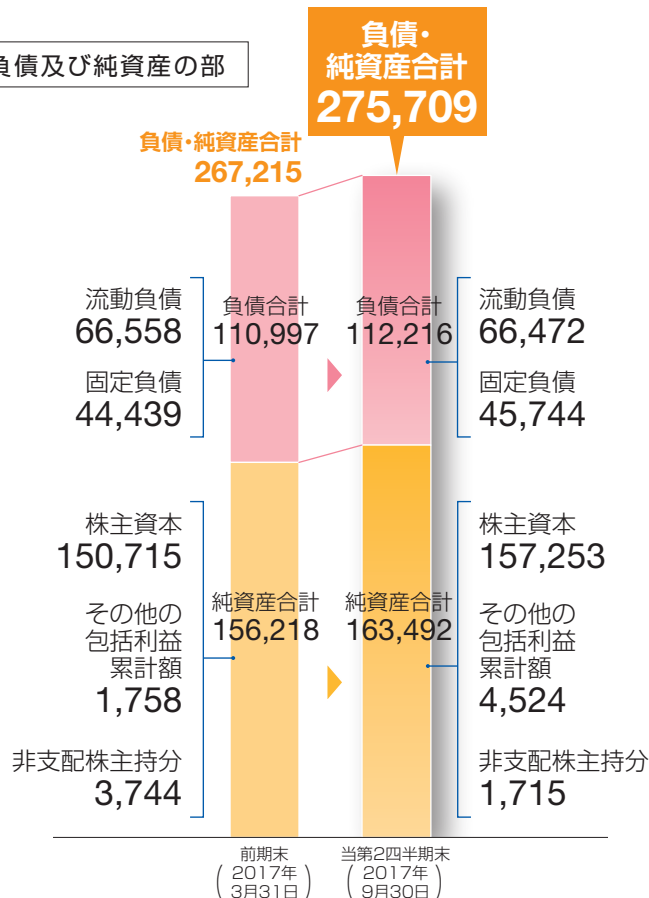
財務データ

○連結貸借対照表の概要 (百万円)

資産の部



負債及び純資産の部



POINT! 自己資本比率は58.7%に上昇

【資産】流動資産：19億円増加

現金及び預金が55億94百万円減少した一方、当第2四半期連結会計期間末が金融機関の休日であったことによる影響等で電子記録債権が40億1百万円増加したこと、仕掛品の増加などによりた卸資産が30億33百万円増加したことなどによる。

固定資産：65億93百万円増加

生産設備への投資などにより有形固定資産が49億10百万円増加したこと、保有株式の時価上昇などにより投資その他の資産が22億83百万円増加したことなどによる。

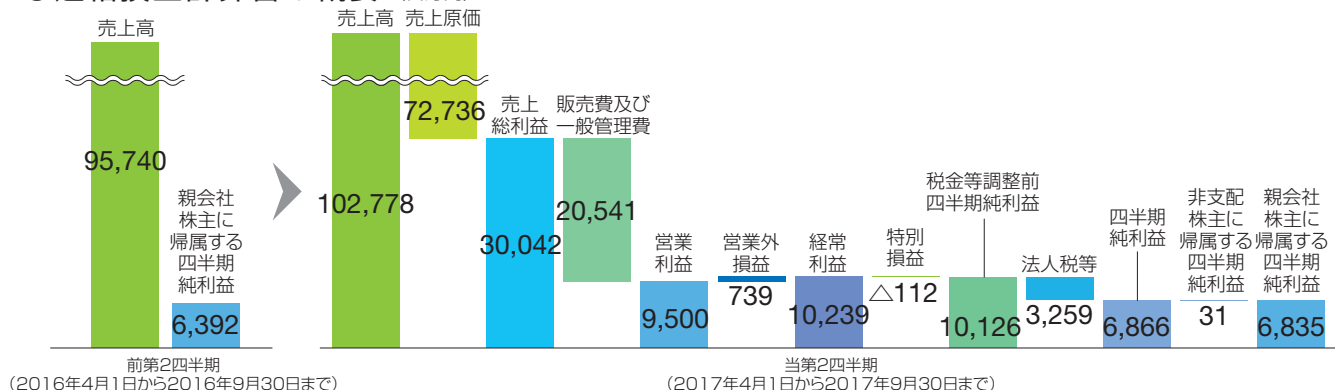
【負債】負債：12億19百万円増加

借入金が83億85百万円減少した一方、電子記録債務が99億80百万円増加したことなどによる。

【純資産】純資産：72億74百万円増加

利益剰余金が45億82百万円増加したこと、保有株式の時価上昇などによりその他有価証券評価差額金が18億55百万円増加したことなどによる。

○連結損益計算書の概要 (百万円)

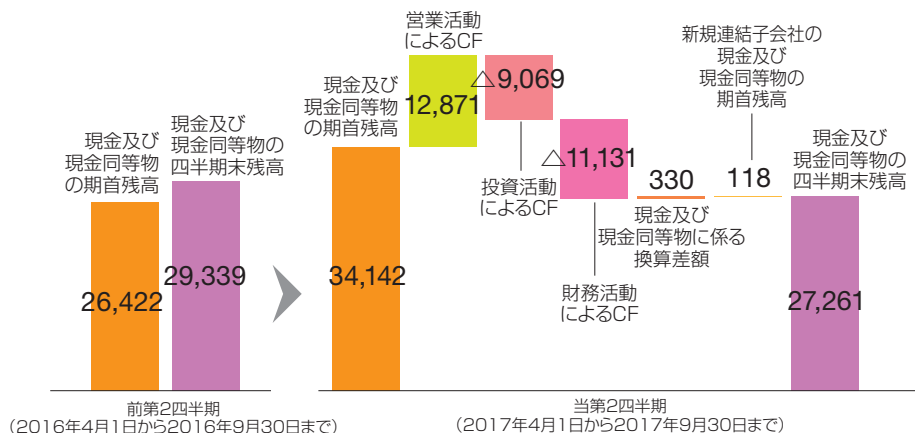


POINT! 国内向けが業績をけん引、前年同期比で増収増益

【売上高】 国内のチェーンや精機、マテハン事業、海外の自動車部品事業が好調に推移し、前年同期比70億38百万円の増収となった。

【営業利益】 チェーン、精機事業の収益改善やマテハン事業の黒字転換はあったものの、鋼材価格の上昇や先行投資費用の増加などにより自動車部品事業の利益が減少したことなどから、前年同期比10百万円の増益にとどまった。

○連結キャッシュ・フロー計算書の状況 (百万円)



さらに詳しい財務データは、
当社ホームページの
「IRライブラリ」をご覧ください。

ツバキモト IR 検索



<http://www.tsubakimoto.jp/ir/library/>

企業・株式データ (2017年9月30日現在)

会社概要 (2017年10月1日現在)

商号 株式会社椿本チエイン
 本店所在地 大阪市北区中之島3丁目3番3号
 設立年月日 1941年(昭和16年)1月31日
 資本金 17,076,679,589円
 工場 京田辺・埼玉・長岡京・兵庫・岡山
 支社 東京・名古屋・大阪
 営業所 札幌・仙台・大宮・横浜・静岡・北陸・豊田・大阪北・広島・四国・九州
 関係会社 連結子会社: 59社
 非連結子会社: 8社
 関連会社: 8社(うち持分法適用関連会社1社)
 従業員数 連結8,338名 単体2,290名(2017年9月30日現在)
(従業員数には契約社員、パート、アルバイトを含んでおります。)

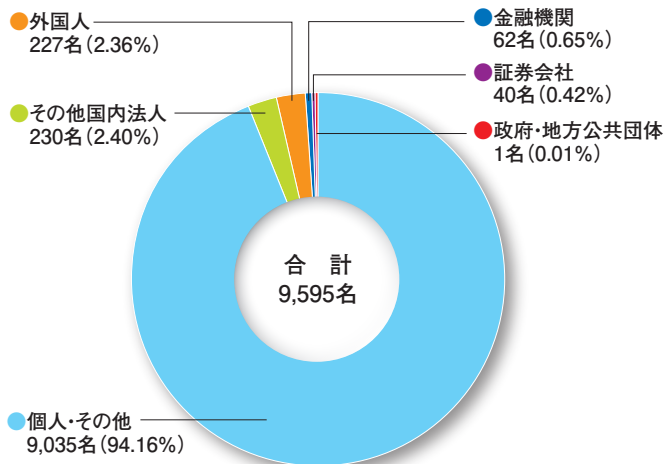
役員 (2017年10月1日現在)

代表取締役会長兼CEO	長 勇	長 勇
代表取締役社長兼COO	原 靖	原 靖
取締役専務執行役員	大 鈴木 恭	大 鈴木 恭
取締役専務執行役員	春 名 秀 昭	春 名 秀 昭
取締役常務執行役員	山 本 哲 也	山 本 哲 也
取締役上席執行役員	川 口 博 正	川 口 博 正
取締役上席執行役員	古 世 憲 二	古 世 憲 二
取締役執行役員	矢 嶋 英 敏	矢 嶋 英 敏 <small>(※1)</small>
取締役執行役員	阿 部 修 司	阿 部 修 司 <small>(※1)</small>
取締役執行役員	安 藤 圭 一	安 藤 圭 一 <small>(※1)</small>
常勤監査役	富 田 喜 久 男	富 田 喜 久 男
常勤監査役	小 林 均	小 林 均
監査役	碩 省 三	碩 省 三 <small>(※2)</small>
上席執行役員	山 藤 秀 文	山 藤 秀 文 <small>(※2)</small>
上席執行役員	伊 藤 雅 彦	伊 藤 雅 彦
執行役員	井 和 伸 光	井 和 伸 光
執行役員	藤 井 幸 博	藤 井 幸 博
執行役員	熊 倉 淳 利	熊 倉 淳 利
執行役員	木 村 Kevin Richard Powers	木 村 Kevin Richard Powers
執行役員	場 田 利 浩	場 田 利 浩
執行役員	宮 地 正 樹	宮 地 正 樹
執行役員	佐 藤 功	佐 藤 功
執行役員	丹 山 太	丹 山 太

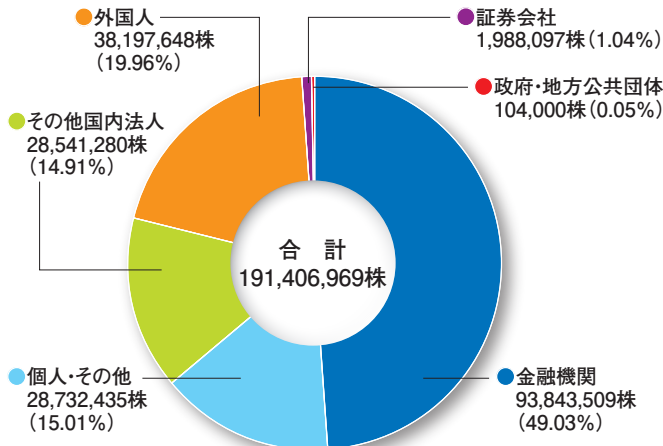
(※1) 取締役のうち矢嶋英敏氏、阿部修司氏および安藤圭一氏は社外取締役です。
 (※2) 監査役のうち碩 省三氏および内藤秀文氏は社外監査役です。

株式の所有者別分布状況

株主数



所有株式数



株式の状況

発行可能株式総数	299,000,000株
発行済株式の総数	191,406,969株
株主数	9,595名

大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
太陽生命保険株式会社	17,798千株	9.40%
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,216	5.92
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	9,865	5.21
日本生命保険相互会社	9,850	5.20
トヨタ自動車株式会社	7,722	4.07
株式会社三井住友銀行	7,034	3.71
橋本チエイン持株共栄会	6,451	3.40
橋本興業株式会社	5,294	2.79
全国共済農業協同組合連合会	4,766	2.51
三井住友信託銀行株式会社	4,245	2.24

(注)1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、自己株式2,134,606株を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人 および特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) ※取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
公告の方法	当社のホームページに掲載 (事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載)

株主の皆様へのお知らせ

○配当金のお受け取り方法について

(配当金領収証で配当金をお受け取りの株主様へ)

当社では、安全・確実に配当金をお受け取りいただくため、銀行等の口座への振込による配当金のお受け取りをお勧めしております。

現在、配当金領収証で配当金をお受け取りの株主様は、ぜひこの機会に口座振込による配当金のお受け取りをご検討いただきますようお願いいたします。

○住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株式預け入れ先の証券会社にお申し出ください。

なお、株券電子化の手続(証券会社への預け入れ)が済んでいない株式に関しましては、三井住友信託銀行株式会社(特別口座の口座管理機関)にお申し出ください。

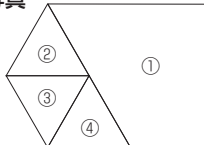
○株券電子化の手続(証券会社への預け入れ)が済んでいない株式について

株券電子化の手続(証券会社への預け入れ)が済んでいない株式は、特別口座にて管理されています。特別口座は株式を売買するための取引口座ではありませんので、株式の売却の際は、あらかじめ証券会社の口座へ振り替えておく必要があります。詳細は、三井住友信託銀行株式会社(特別口座の口座管理機関)にお問い合わせください。

特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

(連絡先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 **0120-782-031**(フリーダイヤル)

表紙の写真



- ①:RS®ローラチェーン
- ②:アクシアモータ®
- ③:タイミングチェーンドライブシステム
- ④:クイックソート®

株主通信(事業のご報告)に関するお問い合わせ先

経営企画センター 広報・IR課

06-6441-0054

株式会社 椿本チエイン

<http://www.tsubakimoto.jp/>

椿本チエイン

検索

